



川瀬巴水 《大宮見沼川》
昭和5年（1930） 木版 36.3 × 24.0 cm
渡邊木版美術画舗蔵

うらわ美術館 URAWA ART MUSEUM

文教のまち浦和で、さいたま市の文化創造の拠点として活動しているうらわ美術館。10月には、約1年の休館を経て待望のリニューアルオープンを迎えました。再開後初となる企画展に臨む、うらわ美術館の「うら」側を紹介します(P2)。

 うらわ美術館 教育普及用
キャラクター「うらびい」

天が雲で覆われ深藍の帳が下り、川沿いに舞う蛍のほのかな光によって、まるで地上に星が降りたかのような夏の夜。暗色でまとめられた画面は一見控えめな表現に感じられますが、よく見ると水面や葉の影、家屋の庇まで緻密に描かれていることがわかります。この作品を描いた川瀬巴水は日本各地を旅し、旅先のスケッチをもとに版画で風景画を数多く制作しました。

大宮・見沼は江戸時代から昭和初期に蛍の名所として知られていました。大宮第二公園には「見沼源氏蛍発生の地」であったことを伝える碑があります。巴水は失われつつあった日本の原風景を自らの足で求め、作品に残してゆきました。（うらわ美術館 滝口）
※本作品は「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」（2024年11月16日～2025年1月19日開催）に出品予定です。

浦和区役所 | 〒330-9586 浦和区常盤6丁目4番4号
☎825・1111(代表・コールセンター)

編集：浦和区コミュニティ課

●人 口 / 169,860人 (男 / 82,195人 女 / 87,665人)

●世帯数 / 80,424世帯 ●面 積 / 11.51km² (令和6年10月1日現在)



X (旧Twitter) ▲

浦和区PR協力店 ▲

浦和区文化の小径マップ ▲

